優郷の学び舎
松丘
学校だより　Ｎｏ．６
令和６年　９月　３０日
世田谷区立松丘小学校
校長　臼井　潤一
０３（３４２９）４２７８
世田谷区立松丘小学校で検索
携帯サイトはＱＲコードから
題字：寺子屋 COSMOS でご協力いただいている、書道家　川口青澄先生にお書きいただきました。

「実りの秋」

副校長　吉田　松寿

２学期が始まり、一ヶ月が過ぎ、子どもたちは授業に集中して取り組んでいる姿がたくさん見られます。休み時間も元気に校庭で遊んだり、楽しそうにお話をしたりしている姿が多く見られ、うれしく思っています。

さて、８月から米不足のニュースが流れ、９月中旬になって新米が出回り、世の中も少し落ち着きを取り戻し始めたところでしょうか。食料となる植物には収穫の時期があり、旬があります。収穫するまでには、多くの方の手がかけられています。

２学期に入り、４年生の子がツルレイシ（ゴーヤ）を手に持って嬉しそうに下校していました。私が「立派なゴーヤだね。」と声を掛けたら、「理科で育てたんだ。和名でツルレイシって言うんだよ。ニガウリとも言うんだよ。」と返してくれました。理科の学習の中で、知識を広げていることにとても感心しました。１年生では小松菜、２年生ではサツマイモの収穫体験があります。生活科ではアサガオやトマトを育てます。３年生はホウセンカとヒマワリ、４年生はゴーヤの成長を観察します。５年生の川場移動教室では、森の中に入って、自然に触れ、リンゴを収穫する体験をします。６年生は、日光林間学園で日光国立公園を歩き、観光資源としての自然を体験してきます。松丘小学校では、身近な野菜を育てる体験から、人と自然の関わりについて、様々な教科で学んでいきます。野菜の価格高騰や米不足のニュースが流れたときに、疑問をもち、植物の成長と自然との関係を考え、その対処法を考えられるように、学びを広げていきたいと思います。

タイトル「実りの秋」のとおり、秋は収穫の季節です。新米を始め、果物やキノコ、芋、栗などたくさん秋の味覚が出てきます。まずは旬を楽しみ、自然に感謝し、親しみをもっていただければと思います。

「今年度の研究」

研究主任

本校では今年度、「自由進度学習」の開発を進めています。自由進度学習とは、子どもたち一人一人が自分の理解度やペースに合わせて学習を進めることができる学習スタイルです。

従来の一斉授業では、全員が同じペースで学習を進めるため、進みが早すぎたり遅すぎたりと、子どもそれぞれの理解度に対応することが難しいという課題がありました。

近年では、不登校傾向の子ども、特異な才能をもつ子ども、海外にルーツをもつ子どもなど、子どもの多様性が広がっています。松丘小にも様々な子どもたちが共に学校生活を送っています。どの子どもたちも、自分に合った学び方を知り、楽しく学びを進めていってほしいと思っています。松丘小では、そんな子どもたちのための学びの環境作りに努めてます。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、さらにこの取り組みを進めてまいります。